

令和7年度 第3回 在宅歯科医療研修会

オンデマンド配信 (ZOOM)

今年度の本研修会(全3回)は、在宅医療について、それぞれの段階に応じたテーマで実施いたします。研修を通じて、地域における在宅歯科医療の体制づくりにおいて、お役立てください。

視聴期間

令和8年3月9日(月)～3月31日(火)

対象

すべての医療関係者

定員

先着300名

参加費用

無料

(研修視聴時のデータ通信料は本人負担となります)

WEB開催
[Zoom]
ライブ配信

申込方法

下記申込フォームにアクセスしていただき、必要事項をご入力の上、お申し込みください。

<https://forms.gle/PyWiPDaXKbicQSVk9>

・本研修は事前申込制です。パソコン、タブレット、スマホで視聴できます。

視聴参加受付締切：令和8年3月24日(火) 正午(12:00)まで

視聴URL初回メール配信日：令和8年3月6日(金)



研修内容、講師については裏面をご確認ください

問い合わせ先：東京都歯科医師会 地域保健課 電話 03-3262-1148 (植木・田口)
ホームページ <https://www.tokyo-da.org/>

東京都8020運動推進特別事業



東京都



公益社団法人 東京都歯科医師会



在宅歯科医療とACP

ー 歯科が担う現実的な役割と 多職種連携への参加のしかたー

東京都リハビリテーション病院 院長補佐
堀田 富士子 先生



ACP (Advance Care Planning) は、将来の変化に備えて、本人の価値観や生活を基盤に、医療およびケアの方針について関係者が継続的に話し合い、共有していく取り組みです。人生の最終段階における意思決定支援として重要性が高まる一方、歯科医師にとっては、その関与の位置づけや具体的な関わり方が明確でないという課題も指摘されています。

本講演では、東京都歯科医師会を含む多職種アンケート調査の結果をもとに、ACPの概念と構造を整理し、歯科医師が担う現実的な役割について検討します。とくに、口腔機能や摂食嚥下といった歯科領域の評価・支援が、ACPIにおける生活機能および価値観の支援にどのように寄与し得るのかを明らかにします。

歯科医師がACPの意思決定そのものを主導するのではなく、多職種連携の中で専門性を発揮し、情報提供や気づきを通じてACPを支える存在となることが重要です。本講演では、日常の歯科診療や在宅歯科医療の実践を通じて、無理なくACPIに参加するための視点と具体的な関わり方を提示いたします。

～ 在宅療養患者と 家族のQOLを支える～ 在宅歯科医療に於ける口腔健康管理の役割

兼久歯科医院 訪問口腔健康管理専門部 主任歯科衛生士
公益社団法人茨城県歯科衛生士会 副会長

中村 郁子 先生



在宅歯科医療を必要とする医療的ケア児、身体・知的障害者、要介護高齢者etc. 抱えている問題は人それぞれです。訪問依頼があるたび、病の背景を確認し、学び、在宅歯科医療を提供する中で、いかに在宅療養生活を支えていくかを考えます。

治療後の口腔健康管理は、誤嚥性肺炎を防ぎ、食べる機能を維持するために重要な役割を果たします。また、在宅生活を支えるために多職種連携は欠かせないものとなっています。他職種にはわかりにくい口の状態と問題について伝え、歯科治療と口腔健康管理の重要性を知っていただくためにも、退院カンファレンスや担当者会議には積極的に参加する必要があると考えています。訪問歯科が在宅チームの一員となり、どのように在宅療養生活を支えるか、これまでの経験をもとにご紹介させていただきます。